

江戸優り

国指定重要無形民俗文化財

佐原の大祭



夏祭り ●山車10台
7月10日以降の
金・土・日曜日



秋祭り ●山車15台
10月第2土曜日を中日
とする金・土・日曜日

※開催日程は変更となる場合がありますので、お越しの際は予めご確認ください。



国指定重要無形民俗文化財

江戸優り 佐原の大祭

佐原の大祭は、7月10日以降の金・土・日曜日に行われる八坂神社祇園祭と10月第2土曜日を中日とする3日間に行われる諏訪神社秋祭りの2つの祭りの総称をいいます。

上部に大人形、周囲に豪華な彫刻が飾り付けられた、総樗造りの重厚な山車が、佐原囃子の音とともに歴史的町並み（国選定重要伝統的建造物群保存地区）の中を曳き廻されます。さらに、山車の前では手古舞の流れをくむ手踊りが披露され祭り気分は一層盛り上がりします。平成16年2月には「佐原の山車行事」として、「佐原囃子」と共に国の重要無形民俗文化財に指定されました。

この祭りの起源は資料がなく不明ですが、佐原は江戸時代中期から利根川舟運により繁栄し、その財力を背景に祭文化が発展し、また江戸との深い経済・文化の交流から江戸の山王祭や神田祭を強く意識し江戸より優れた山車祭りの実現を目標に形成されてきました。

約三百年にわたりその伝統は脈々と今に受け継がれています。



国指定重要無形民俗文化財
日本三大囃子
佐原囃子

佐原囃子

山車の中天上と呼ばれる下高欄で演奏される佐原囃子は情緒的なメロディーを主体とする独特の祭り囃子です。

佐原では、お囃子を下座と呼び、囃子方を下座連といいます。楽器は、笛・大皮・小鼓・大太鼓・小太鼓・すり鉦で、15人位で演奏される和楽器のオーケストラです。

曲目は40曲以上あり、ゆっくりとした山車の動きに合わせて作曲された「段物」、民謡や各時代のやり歌、またテンポの速い曲等の「端物」、山車の出発等、儀式的に奏する「役物」に分類されます。これ等の曲は山車が曳き廻される道の雰囲気に合わせて演奏されます。

佐原囃子の独特の響きと曲の多さは、他の囃子には類例がありません。



主な曲目

- 段物** (だんもの) 吾妻、巢籠り、さらし、神田、八百屋、段七、曾我、盾、くずし
- 役物** (やくもの) 砂切(さんぎり)、馬鹿囃子、はな三番叟
- 端物** (はちもの) おやまか、猫じゃ、矢車、巢籠りくずし、津島、吉野、剣囃子、大和、佐原音頭、佐原小唄、松飾り、あんば、大杉あんば、大漁節、ラッパ節、船頭小唄、串本節 等々

※背景は佐原囃子の伝承のために昭和23年に初めて作られた譜面



◆ 神武天皇
じんむてんのう

〔船戸〕

①平成9年(1997年) ②飾り物に良いものが多いが、中でも鷹の飾り物が優れているという。
②明治20年(1887年) ③余所(じょうかん)



◆ 鷹
たか

〔仁井宿〕

①平成11年(1999年) ②宝暦年間(1751~1764年) ③仁愛(じんあい)
④飾り物の鷹は、福わらを使い、町内全員の協力で作成。



●7月10日以降の金・土・日曜日

夏祭り

山車10台



◆ 天鈿女命
あめのうすめのみこと

〔本川岸〕

①明治15年(1882年) ②他の山車と異なり天井が神楽殿で天鈿女命が舞う優雅な形を取り入れている。
②江戸後期(戦後大修復) ③歌祭(しょうらく)



◆ 経津主命
つつぬしのみこと

〔荒久〕

①昭和3年(1928年) ②大正9年(1920年) ③織機(いとく)
④飾り物は香取神宮の祭神。飾り物も立派で、特に方立(柱廻し)は優れている。



◆ 太田道灌
おたどうかん

〔上仲町〕

①明治34年(1901年) ②大正10年(1921年) ③織機(いとく)
④天壽は金糸に織み目。文化時代(1804~1817年)の作。文化財としての価値も高い。



◆ 菅原道眞(菅公)
すがわらみちざね

〔下仲町〕

①文政5年(1822年) ②玉簾、天壽は安政3年(1856年)の作。平成24年、古文書の発見により、現存する佐原最古の山車と判明した。
②大正10年(1921年) ③織機(しょうとく)

山車の曲曳き

の字廻し



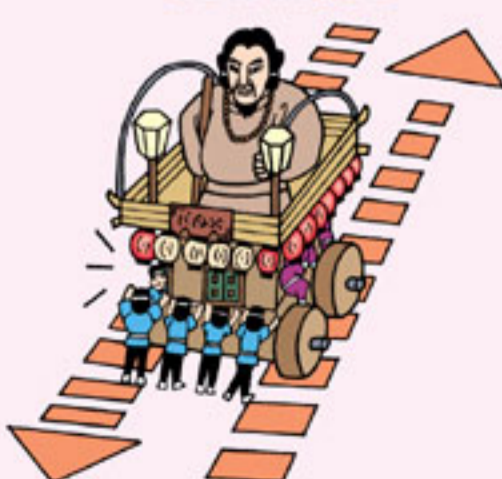
山車走行を一度停止させてから行う方法と、山車走行を止めずに行う「まわしこみ」がある。回転演技中はゆっくり廻しかつ山車の停止は恥とされている。

こぼん廻し



山車を小判の形に楕円を描く様に曳く。常に一定速度と角を曲がる技術は見た目の派手さこそないがなかなか難度であり玄人、職人技である。

そろばん曳き



山車を直線に往復。豪快さと早さ、山車を止める力強さは興奮の一言。

凡例

◆ 飾り物 (町内名)

山車

①山車制作年 ②飾り物制作年 ③額文字 ④一口メモ



◆ 武甕槌命
たけみかづちのみこと

〔浜宿〕

①平成9年(1997年) ②昭和12年(1937年) ③柔和(にょうわ)
④山車彫刻は寛永元年から4年間かけて制作されたもの。



◆ 鯉
こい

〔八日市場〕

①明治29年(1896年) ②文久年間(1861~1864年) ③龍の彫刻
④飾り物の鯉は、夏わらを使い、町内全員の協力で作成。



◆ 伊弉那岐尊
いざなぎのみこと

〔田宿〕

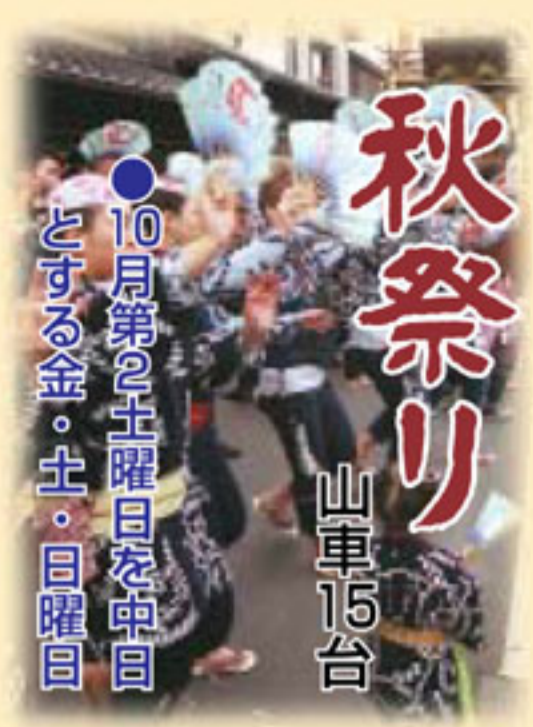
①嘉永4年(1851年) ②明治43年(1910年) ③飛騨(ふたたい)
④山車は漆塗り、天井には漆絵が施してある。



◆ 金時山姥
きんときやまんば

〔寺宿〕

①嘉永3年(1850年) ②明治12年(1879年) ③飛騨(へいたい)
④飾り物は足利山での少年期を表し、漆にまたがり背をがさし、力強さを表している。



秋祭り

●10月第2土曜日を中日とする金・土・日曜日
山車15台

◆源義経
〔上宿〕



①昭和53年(1978年) ②飾り物は、源平の戦いのひよどり旗での勇姿をかたどっている。
③智美(ちゆみ)

◆小野道風
〔新橋本〕



①明治27年(1894年) ②飾の文字「管絃」は小野道風真蹟と伝えられている。
③富岡(とみおか)

◆小楠公(楠木正行)
〔下分〕



①明治28年(1895年) ②飾り物は西条頼朝の合戦の際、如徳輪寺の壁に矢尻で討世の句を書きつける楠木正行の姿。
③下分(しもわけ)

◆神武天皇
〔仲川彦〕



①明治31年(1898年) ②明治31年(1898年) ③博和天(ひろきことてんのごとし)
④三方正堂造りの山車で、造し柱8本で制作。材料の榿(けやき)は九州の玉日の一本取り。

◆建速素盞鳴尊
〔下川彦〕



①明治31年(1898年) ②江戸復興 ③成瀬(なるせ)
④山車は「八方にらみ」といわれる形で西方向のどちらから見ても同じ様に見える。

◆鎮西八郎為朝
〔上申宿〕



①慶永5年(1852年) ②明治15年(1882年) ③富士山の彫刻
④彫り物は「柱隠し」といわれる技法が用いられ、富士の裾野での巻き舞りの様子が見られる。

◆源頼義
〔下宿〕



①明治8年(1875年) ②明治32年(1899年) ③誠徳(せいとく)
④彫り物は、源頼義が山中の戦いで、岩を弓で突き水を出した故事による。

◆大楠公(楠木正成)
〔東関戸〕



①昭和10年(1935年) ②昭和10年(1935年) ③純正(じゆんせい)
④山車は柱隠しがなく西方正堂を特徴とする。飾の文字は虎木貞大將軍大將の筆。

◆瓊瓊杵尊
〔西関戸〕



①昭和10年(1935年) ②昭和15年(1940年) ③神威討実(しんいごくえき)
④飾は石川朝光作の彫り物で飾られ、文字は明治神宮の元宮司 有馬良儀氏の筆。

◆諏訪大神
〔上新町〕



①昭和11年(1936年) ②昭和11年(1936年) ③敬神(けいしん)
④大衆を飾り、八咫鏡(やたのかがみ)の両側に旗などが置かれている。

◆日本武尊
〔北横宿〕



①明治8年(1875年) ②明治8年(1875年) ③愛徳(あいとく)
④彫刻は木彫りとは異なる立体的で生命力に溢れている。

◆浦嶋太郎
〔下新町〕



①江戸復興 ②明治12年(1879年) ③源波(おんは)
④天幕は本金のしめ縄、彫り物は歌川国秀の水滸伝をかたどり、彫りも深く重厚な感じである。

◆牛天神
〔新上川彦〕



①明治45年(1912年) ②江戸復興 ③上河岸(うわがし)
④飾物の彫り物は、保元・平治の乱で功を立て、刺撃して源三位入道と名づけた源朝政の御札。

◆仁徳天皇
〔南横宿〕



①明治8年(1875年) ②大正14年(1925年) ③高きやに登りて見れば知たつ民のかまどは雨にいけり
④彫刻は三原忠「熊鷹の誓い」から始まり、各場面を10年の歳月をかけて彫り上げた大作である。

◆桃太郎
〔中宿〕



①江戸時代復興 ②大正11年(1922年) ③豊隆(ほうりゅう)
④昭和30年代を最後に、現在山車のみ残りは行われていない。

▼仁徳天皇 南横宿区

(大正14年(1925) 三代目安本亀八作)

「高きやに 昇りて見れば煙立つ 民のかまどは にぎわいにけり」の歌で有名な第16代の天皇で、人民の苦しみを見て課役を廃止するなど仁政で知られています。



▲神武天皇 船戸区

(明治20年(1887) 三代目原舟月作)

記紀神話によると日本各地の荒ぶる神々を平定し即位した初代天皇と伝えられています。仲川岸区も神武天皇を飾っています。

日本最大級・人形師の業

山車飾り・大人形

佐原の山車の大きな特徴の一つに、身の丈5メートル近くある大人形が山車の最上部に飾り付けられている点があります。江戸時代後期から昭和初期にかけて江戸、東京で活躍した名工、鼠屋福田万吉、原舟月、安本亀八、大柴護豊などの人形師達によって制作されたものです。現在ではこのような大首人形をつくれる職人は少ないと言われ貴重な文化遺産となっています。

▼浪裡白跳張順の水門破りの図
歌川国芳画「水滸伝」錦絵



山車彫刻

佐原の山車の周囲には樺(けやき)材で制作された関東彫りの重厚で豪華な彫刻が飾り付けられています。

制作は、後藤、石川、立川などの江戸の名工といわれた彫刻師により手掛けられ、構図は一般的な龍や花鳥、獅子だけでなく、日本神話や軍記物、伝承もの、中国の故事など様々なものがあり、登場する人物は表情豊かで躍動的に彫られています。



▲西関戸区のち密な龍の彫刻
嘉永年代(1848~1854) 四代目石川藤吉朝光作

▲下新町区

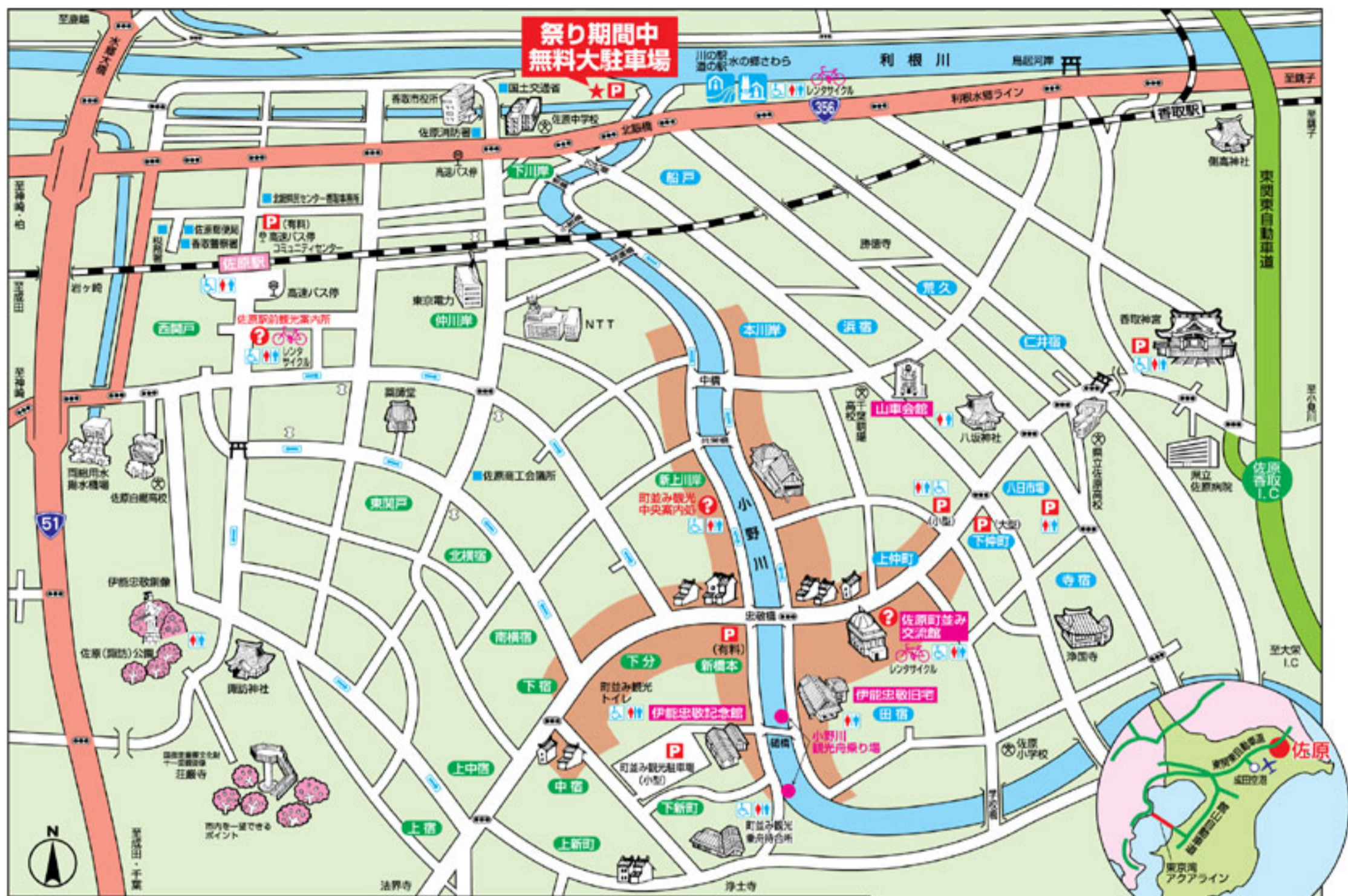
文久2年(1862) 石川三之助作

歌川国芳が描いた水滸伝の英雄達の錦絵を題材とした彫刻が、山車全体に飾り付けられています。

▶八日市場区

明治21年(1888) 小松重太郎光重・光春作
山車全体に太閤記を題材として、豊臣秀吉や竹中半兵衛、加藤清正等が彫られています。
写真は、加藤清正公。





交通のご案内



重要伝統的建造物群保存地区
 凡例 P 駐車場 ? 観光案内所 トイレ ♿ 身障者用トイレ

市内観光には、レンタサイクル(1日300円)を利用すると便利です。
 貸出し場所
 駅前観光案内所・佐原町並み交流館・水の郷さわら

伝統の美 日本一の山車を展示 水郷佐原山車会館



7月と10月に行われる祭礼を華やかに彩る24台の山車が交替に2台展示され、本物の迫力をいつでも実感することができます。



【開館時間】

■通年 9時～16時30分
 ■夏祭り期間 9時～20時30分
 休館日：月曜日(祝日の場合は開館)
 年末年始
 ※あやめまつり期間中は無休で開館しています。

【交通案内】

■JR利用(JR成田線)：JR佐原駅下車徒歩15分
 ■自動車(東京方面から)：東関東自動車道・佐原香取IC・県道佐原山田線経由約5分

【入館料】

	個人	団体 (15名以上)	伊能忠敬記念館とセットで お得な共通入館券
大人	400円	350円	大人 800円
小・中学生	200円	150円	小・中学生 350円

◆年間パスポートのご案内◆

市内3施設(水郷佐原水生植物園・水郷佐原山車会館・伊能忠敬記念館)共通の年間パスポートを各施設にて販売中。パスポート協賛店でのおもてなし特典も受けられます。
 ◎大人：2,000円 ◎小・中学生：1,000円

ビデオシアターの映像が新しくなりました。平成22年4月から公開しています。

〒287-0003 千葉県香取市佐原イ3368(八坂神社境内) ☎0478-52-4104 <http://www.city.katori.lg.jp/dashikaikan/>